

2021年度入学式 式辞

神奈川大学に入学された皆さん、また、更なる学問探究を志して神奈川大学大学院に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。また、今回はコロナ禍により、式典にご出席いただけなかった御父母の皆さま、関係者の皆さまにも、心からお慶び申し上げます。

同時に、本日のこのときも、新型コロナウイルスから尊厳ある命を守るために奮闘努力されている世界中の医療従事者と関係者のみな様に対して、新入生の皆さんと共に、あらためて心からの感謝の気持ちと敬意を表したいと思います。

さて、本学は、今年で創立93周年を迎えますが、創立者の米田吉盛が「人は実業家や学者、官僚である前に、まず人間であれ」と説いて以来、卓越した研究の叡智に基づく教育重視の伝統を堅持して、学問による「人づくり」に努めてまいりました。近年では、「約束します、成長力。—成長支援第一主義—」と表現したコンセプトのなかで、

「人をつくる」高等教育機関としての誇りと自負を持って、新入生の皆さんを学問へといざなう準備を整えております。皆さんが、本学で、その能力を伸ばし、人として大きく成長するよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。

近年、大学の評価は、第三者機関による世界基準に則して示されるようになっていきます。例えば、イギリスの高等教育情報誌である、タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した「T.H.E.世界大学ランキング」において、本学が世界の上位5%内の大学として掲載されています。同時に、国連が採択したSDGsに関する評価指標である「世界インパクトランキング」においても全ての評価項目にランクインしています。これらは、本学が世界有数の総合大学の一つとして評価されたことを意味しています。この高い評価の根底には、本学の研究力と教育力の高さがあります。本学には、未来社会を先導する一流の研究者が集っています。大学の評価は、世界の基準では、入試の偏差値などではなく、社会に貢献できる研究力と教育力にあることを、皆さんも良く理解するようにしてください。

さて、新世紀に入り、私たち人類はますます多元的な価値観と複雑な社会構造のなかで生きていかねばなりません。

現行の資本主義社会のシステムは、経済成長をもたらす魅力溢れる社会システムですが、資源の枯渇等の制約条件を考慮すると、その恩恵をこのまま継続して享受することはできなくなるでしょう。また、「ワシントン・コンセンサス」と呼ばれる新自由主義的政策パッケージとグローバリズムの席卷は、各国経済の破壊と所得低下にともなう膨大な需要不足のなかで、想定を越える結果の不平等と新たな南北対立や社会の分断等をもたらしています。その上、気候変動に起因する地球環境問題が深刻化するなかで、国境を越える人類の課題がより複雑な様相を呈しています。

さらに、新型コロナウイルスの急速な蔓延は、グローバリズムの負の側面として、人種、民族、宗教を越えて世界中の人々を苦悩のなかに陥れ、私たち戦後世代が、経験したことのない未曾有の危機に瀕しています。

私たちは、このコロナ禍に向き合い対峙するなかで、これまで見過ごされてきた社会システムの不備や内在する諸問題に改めて気付か

されました。例えば、昨年アメリカ大統領選挙で浮き彫りになった人種差別問題は、雇用、司法、教育等にまで及んでおり、それらが結果として貧困問題に直結し、コロナ禍の下、脆弱な医療制度の実情と相まって、社会的弱者の人権問題として顕在化するに至っております。

アメリカ公民権運動の転機となったマーティン・ルーサー・キング牧師による「セルマ大行進」から半世紀後の2015年3月に、当時のオバマ大統領はアラバマ州セルマを訪れて「私たちのデモ行進はまだ終わっていない。・・・この国の人種差別の歴史はいまだ私たちの上に長い影を落としている。」と人種差別問題の解決を呼びかけました。この大統領声明は、セルマ訪問の前年に起こった射殺事件がきっかけとされています。大学に入学する2日前、18歳のアフリカ系青年が、コンビニエンスストアから自宅に帰る途中、窃盗容疑で警察官ともみ合いになり射殺された事件です。当時の司法長官が「人種に基づく意図的な差別行為があった」と認定し、地元警察の解体もあり得るとまで言及したものの、その後も警察による人種差別事件は、全米各地で後を絶ちません。大統領選挙の渦中に広がりを見せた「Black Lives Matter」の運動も、歴史的な運動の延長線上にあると

言えるでしょう。また、市民によるアジア系住民への差別や暴力事件も報道されており、人種による差別の問題は、根が深く、もちろんアメリカ社会に限ったことではありません。

このように、コロナ禍への対応を通して、すべての人が生まれながらにして持っている基本的な権利についても、私たちの社会には、多くの課題が残されたままであることを、改めて確認された方も多いと思います。

だからこそ、皆さんは、本学での学びのなかで、ウィズコロナの新しい共生社会、ともに生きる社会をイメージしながら、「自ら考える力」と「世界の本質を見極める見識」を培う努力を継続してください。

さて、本学は、2018年に、『ダイバーシティ宣言』を行いました。すなわち、世界の恒久平和と人類の幸福の実現に貢献できる良識ある市民を育成し、社会に存在する差別や偏見の根源的な解明と解決をめざす、と唱いました。

さらに、2019年には、SDGsの達成に向けた研究・教育を推進するために『SDGsへの神奈川大学のコミットメント』を表明いたしました。

貧困、飢餓、教育、気候変動、平和な社会などの持続可能な開発目標であるSDGsは、本学が創立以来掲げてきた使命の実現とその意義を共有するものと理解しています。

加えて本学では、学則の第1条に明記してあるように、伝統的に「教養教育」に力を入れてまいりました。

たとえば、人文学系の学問である哲学、宗教、歴史、文学、芸術等を学ぶことで、自らの血肉にする知見は、専門的学問探究が陥りがちな狭い見や、行き詰まりを超越して、知識の体系化に結びつける力を持つものであり、SDGsが目指す持続可能な社会システムにたどり着くために必要な見識でもあります。

また、自ら培った専門的知識と能力を、どう使うのか、誰がために、何のために使うのかを方向付けるのが、その人の教養といえます。例えば、高い専門性を持つ弁護士の資格を得たときに、弁護士としての

専門知識と能力を、社会に貢献するために使うのか、そうでないのかは、その人の教養に依存します。

さらに、日本のように資源がない国に生きる私たちは、自由で柔軟な発想のもとに、世界の人々に必要とされる「ものやサービス」を生み出していかなければなりません。そのためにも、新しい共生社会に必要とされるものを皆さんなりに考えて、先進的なテクノロジーと融合させることが大切です。かつて、アップル社のスティーブ・ジョブズは、「われわれは、テクノロジーとリベラルアーツの交差点に立とうとした」と述べたことがありました。これも教養の大切さを説明したものと理解して、本学での教養科目にも、しっかりと取り組んでください。

大学では、学者の研究内容に基づいて、さまざまな講義が行われます。研究者である大学教員は、自らの長年にわたる研究課題との奮闘とその成果をもって講義を行います。研究室の学者が、講義を行う時は教育者として、皆さんが本来持っている学ぶ意欲と知的好奇心をさらに伸ばすことを目指して教壇に立っています。

皆さんは、講義を通して、教員の研究に取り組む姿勢や、真理の探究に奮闘する学者の精神にも触れることもあるでしょう。大学の教員は、遠い学生時代に、先学の学問への情熱とそのひたむきさに心を揺さぶられた経験を持つはずです。大学の講義室は、連綿と続く人類の叡智の継承の場であるとともに、学問を志し、学ぶものの精神を含めた継承の場でもあるのです。

一般に、学問の目的は、「真理の探求と人類の生存条件の辛さを軽減することにある」とされています。あらゆる学問は、人類の幸福という公共性にかかれた学問として登場しています。イギリスの経済思想の泰斗であるジョン・ステュアート・ミルも青年時代の勉学は価値がある、すなわち「人間性を高めるとともに人間社会の新たな問題に対処しうる能力を高める事になる」と述べています。

本学は、新入生の皆さんが、しっかりと学問に取り組むとともに、新たな友人と出会い、語らい、課外活動等の様々な可能性に挑戦するなかで、人として成長し、皆さんしかできないことを見出して、自立

した個人として社会に船出するために最高の教育と環境を提供して
まいります。

最後になりますが、新入生の皆さんが、「人をつくる」大学である
神奈川大学の学生としての誇りと自信を持って、健康に心がけて、実
りの多い学生生活を過ごされますよう心より祈念して、私からの式
辞といたします。

令和3年4月3日

神奈川大学長 兼子良夫